



# 会津若松市民憲章作文コンクール 最優秀作品

## 小学校2・3年生の部

『伝えるわたしの気持ち』  
会津若松市立城南小学校 3年 鹿目 来々

ありがとうもあいさつも、言葉にしないと伝わりません。だまっけていても、だれともなかよくなれません。わたしは、いろいろ口に出して伝えたいと思っています。

たとえば、横だん歩道をわたったらとまってくれた車におじぎをしています。道であった近所の人たちにはあいさつをします。みんな、にこにこして返事をしてくれます。わたしもうれしいし、相手もうれしいと思います。お母さんもとてもほめてくれました。みんなが気持ちよくなることをみんなですれば、この町はとても住みやすくなると思います。そのために自分のことばかりではなくて、相手の気持ちになることが大事だと思います。自分の家をきれいにするように、町を自分の家だと思えば、ゴミをすてたり、よごしたりもないと思います。だれかがしてくれるのではなくて、一人一人が自分から行動してきれいにできれば、世界が住みやすくなります。そんなみらいがきたら、とてもうれしいです。

そしてあいさつをすれば、知らない人ともなかよくなれます。地球上がみんな友だちや家族のようになれば、みんなしあわせだと思います。そんなふうになるには、とても大へんです。みんなの気持ちとゆう気がひつようです。だれかをかえるために、わたしはまず自分からできることをしていきます。はずかしがらずに、「ありがとうございます」、「こんにちは」と大きな声でいいたいです。住みよい町にするために。そして自分のために。

# 会津若松市民憲章作文コンクール 最優秀作品

## 小学4・5・6年生の部

『気付くことの大切さ』  
会津若松市立謹教小学校 6年 土田 柑菜

夏休みのある日、母と家の近くの店に歩いて買い物に行きました。その時、歩道の点字ブロックに、側の空き地の雑草がのびておおいかぶさっていることに気が付きました。私は、毎朝登校する時に、白杖を使って歩いている人を見かけます。その人のことが頭をよぎりました。

視覚障がい者の人は足裏の触感覚で点字ブロックを確認して歩きます。そのため、点字ブロックに雑草がおおいかぶさっていたら、足にからまって転んでしまいます。また、自転車に乗っている人も車輪に草がからまって、転倒してしまう可能性があります。小さい子供やベビーカーを押している人にも危険が及びます。点字ブロックについて気になったので調べてみると、点字ブロックの設置基準として「周囲三十センチメートル以内に障害物がない箇所に設置すること」とありました。

私はどうしたら安全になるのかを、自分なりに考えてみました。まず、空き地の所有者は、道路に雑草が出ないように常に管理しなければならないということです。

そして、もう一つ大切だと考えたこと、それは私たちが「気付く」ということです。普段から危険なことに気付くこと、ちょっとしたまわりの変化に気付くことで、多くの人の安全が守られると思います。

今回、点字ブロックに雑草がおおいかぶさっていたことも、私は今までの登下校の時は全く気が付いていませんでした。夏休みになり気持ちにゆとりを持って、母と二人で歩いたことで気が付きました。気付くことで社会は変わっていくのではないかと思います。

私は、点字ブロックに雑草がおおいかぶさっているのを見たとき、「点字ブロックをずらして設置してあげればいいのに」と思いました。しかし、よく考えてみると、点字ブロックをずらすということは車道側に寄せるということで、また危険が増してしまいます。それでは何の解決にもならないのです。

人が何かに気付き、やさしい気持ちで行動することで社会が良くなっていくのだと思います。障がいをもっている人、小さな子ども、お年寄りが住みやすい社会は、すべての人が住みやすい社会だと思います。最初にその人たちの視点で考えれば、安全で住みやすい社会になると思います。

# 会津若松市民憲章作文コンクール 最優秀作品

## 中学生の部

『住みよいまちをつくるために』  
会津若松市立第三中学校 3年 山田 育磨

僕は、毎朝学校に登校するときに朝早くから、校門の前に立ってあいさつをしてくださる人がいます。あいさつをしてもらうと、気分が良くなります。

毎朝、雨の日晴れの日雪の日でも立ってくださる方々を見ると、とてもありがたいと思います。中学校生活の中で、毎朝顔を合わせる事で、安心感がありました。

自分達が、安心安全に暮らすために知らず知らずのうちに日常生活での支えとなっていました。

この事は、地域社会で役立ち大切なことだと感じました。自分達がやって頂いたことは、自分達が大人になったら引き継いでいくべきだと感じました。

これを、引き継いでいくためには将来大人になったときに毎朝立ってあいさつを行うことが必要だと思いました。

住みよい町をつくるためには、笑顔がこぼれるような社会をつくる事が大切だと思います。

それには、一人一人の努力と町全体を活気づけることが必要だと感じました。例えば、一人一人ができる努力にはポイ捨てをしない、歩きタバコの廃止など色々あります。

逆に、町全体の活気をつけるには、祭りなどの行事を行ったり地域ごとの行事を増やしたりなど様々な事があります。

ですが、犯罪や事件事故などが起こってしまうと住みよい町をつくることはできなくなります。そのためにも、みんなで協力して犯罪、事件、事故などを防止する必要があります。

防止するために、夜の地域パトロールをしたり、事件、事故が起こりやすいような所を点検したりするなど、みんなで取り組み社会を支えて、よりよくしていくことも大切です。

このようにして、住みよい町をつくるには一人一人の努力と地域や町全体での努力二つとも重要になってくると思います。今の会津若松市は、少子高齢化といった日本全体でも問題となっている事が起こっているのが、事実です。

高齢者、新しく産まれてくる子供、この両方が安心安全に暮らせて、犯罪、事件事故等がない当たり前の生活が送れることが住みよい町づくりの第一歩でもあり、会津若松市という小さな市が安心安全で、おもわず笑顔がこぼれるようなまちになればいいなと思います。五年後僕達は二十歳になります。その時までには、コロナウイルスが終息し、以前の生活に戻って、当たり前だと思っていたことが当たり前に見える生活に戻っていれば、いいと思います。